

## 令和6年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

### ○単位収量の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	単収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	株式会社あぐりてらす阿知須 代表取締役 長尾 誠大	山口県 山口市	北陸 193 号 オオナリ みなちから	353	863	水稲作付面積が73haという大規模な経営の中で、多くの水稲品種を組み合わせて作期分散を図りつつ、飼料用米の取組1年目で863kg/10aという高単収を実現している。実需者や地域の関係者と連携したほ場視察会など多収化に向けた取組や、営農支援システムや栽培管理支援システムを活用した省力化など、生産・経営の両面で模範となり得る積極的な取組が行われている。
農産局長賞	福井 慎也 福井 順一	愛媛県 西予市	北陸 193 号	421	792	水稲・麦・大豆のブロックローテーションに取り組みながら、経営面積(全品目作付け延べ面積)30haという大規模な経営の中で、作期分散も考慮しつつ品種選定を行い、高単収を実現している。ドローンや自作の除草用水田ボート、営農支援システムを活用して省力化に取り組むほか、畜産農家との耕畜連携にも取り組んでいる。
全国農業協同組合 中央会会長賞	有限会社佐久平インター ナショナルファーム 代表者 池田 亮	長野県 佐久市	ふくおこし	517	742	飼料作物や野菜等と水稲との輪作を行い、育苗における省力化や雑草防除対策等にも取り組みつつ、経営面積47haという大規模な経営の中で高単収を実現している。
全国農業協同組合 連合会会長賞	猪俣 一徳	福島県 会津美里町	ふくひびき	164	800	営農管理システムや土壌EC測定を活用した可変施肥等により省力化・低コスト化を図りつつ、高単収を実現している。地域の稲作部会で多収品種の周知・普及を行うなど、生産面・生産技術の普及・啓発の両面で優れている。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	株式会社 Z E S T 代表取締役 高橋 裕治	北海道 秩父別町	そらゆたか	2,938	776	経営面積32haのうち29haという圧倒的な飼料用米の作付面積の下で、高温・干ばつ対策を含めた各般のきめ細かな作業の積み重ねとスマート農業の導入等により省力化・低コスト化を図りつつ高水準の単収を実現している。更に、積極的に農地集積も進めて地域におけるモデル的な役割を果たしている。
日本農業新聞 会長賞	三輪農園株式会社 代表取締役 三輪 敏之	山口県 山口市	北陸 193 号 みなちから	1,033	769	飼料用を含む水稲と、裏作麦の作付け体系で水田の高度利用を実現しながら、大規模な経営の中で作期分散を図りつつ、地域平均より243kg多い単収769kg/10aを実現している。鶏ふんを1トン/10a投入するなど、実需者とも連携して耕畜連携にも力を入れている。

## 令和6年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

### ○地域の平均単収からの増収の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	地域平均単収 からの増収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	農事組合法人ふながわ 代表理事 由井 久也 <small>よしい ひさなり</small>	富山県 朝日町	やまだわら	608	279	水稲と大豆のブロックローテーションに取り組みながら、経営面積（全品目作付け延べ面積）53haという大規模な経営の中で、堆肥等を活用した丁寧な土づくり、自前のドローンを活用した適期防除などに取り組んでいる。本年からは更に栽培管理支援システムを導入して追肥を最適化し、収量の安定化を図りつつ省力化・低コスト化に取り組み、増収量279kgという高単収を達成している。
農産局長賞	池田 侯男 <small>いけだ よしお</small>	山口県 山口市	オオナリ	125	254	多収性に加えて耐病性・耐倒伏性・脱粒性等も考慮した品種の選定により多収化を図るとともに、実需者や地域の関係者と連携したほ場視察会など多収化に向けた取組にも参画し、高収量を実現している。育苗・田植えにおける省力化や、堆肥を用いた土づくり、立毛乾燥による乾燥コストの低減等の取組も行われている。
全国農業協同組合 中央会会長賞	矢野 陸男 <small>やの むつお</small>	宮崎県 日向市	ひなたみのり	80	202	基本技術をしっかりとおさえ、高収量を実現している。経営面においても、中長期的な視点で作付け品目を判断し、飼料用米の取組を定着させている。
全国農業協同組合 連合会会長賞	二宮 謙一 <small>にのみや けんいち</small>	愛媛県 大洲市	北陸 193 号	710	229	もみ殻や稲わらを利用した丁寧な土づくりや、葉色を見つつ追肥を検討するなどこまめな栽培管理に努め、高収量を実現している。地域の飼料用米研究会に参画し活動を行う中で、生産技術の向上と地域の活性化に取り組んでいる。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	有限会社原田ファーム 代表取締役 原田 武徳 <small>はらだ たけのり</small>	山口県 山口市	夢あおば みなちから	702	189	平成22年の飼料用米の作付け開始以降、実需者との耕畜連携によって着実に地力の向上を図り、経営面積18haのうち7haを飼料用米生産に充てる中で、スマート農業の導入、圃場の大区画化等のモデル性ある取組と高水準の単収を実現している。
日本農業新聞 会長賞	久保 徳太郎 <small>くぼ とくたろう</small>	愛媛県 内子町	北陸 193 号	186	281	過去に飼料用米に取り組んだ際には収量が上がり止めていたとのことだが、令和4年に品種を見直して再開してからは単収が向上し、高収量を実現している。稲わらのすき込みと一発肥料に加え、追肥の必要性も検討しつつ多収を追求している。